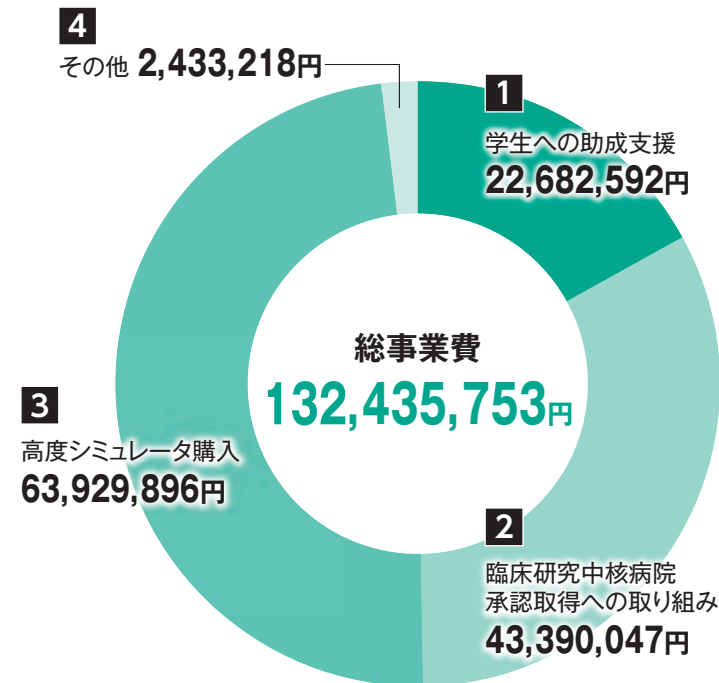
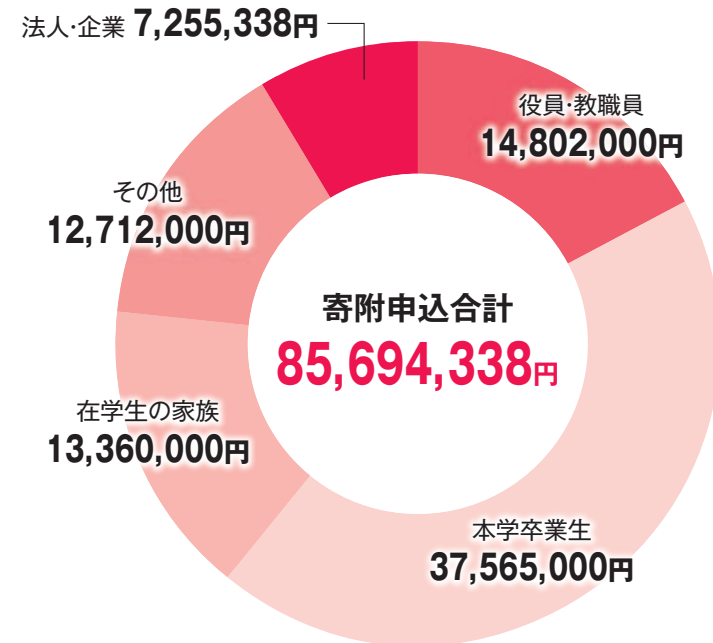


2021年度 実績のご報告

奈良県立医科大学「未来への飛躍」基金は、2021年で創設から7年目を迎え、本学卒業生を始めとする多くの方々からのご支援・ご協力により、総額約10億円のご寄附をいただいております。皆様からいただいたご寄附は、基金の目的に沿って、大学・学生への支援等幅広く活用させていただいております。

2021年度寄附申込額と使途実績

[差額は基金に積み立てています。]



事業の概要

1 学生への助成支援について

- ・国内外の研修への活動費
- ・学生の支援を行う講座への活動費
- ・医師・看護師・保健師の国家試験模試費用の支援
- ・クラブ活動への支援
- ・看護学生への実習着の授与 等

3 高度シミュレータ購入

初期研修医を中心としたシミュレーション教育の充実・発展をさせるためのシミュレータを購入。

2 臨床研究中核病院について

本学では申請に向けて、承認要件とされる体制整備を進めております。また、必要とされる医師主導治験と特定臨床研究の新規実施件数の確保を目指して推進を図っております。「未来への飛躍」基金からの研究費助成金の成果もあり、2021年度の特定臨床研究の新規件数は、前年度の3件から大幅増の9件(R4年4月現在)となりました。

4 その他について

健康長寿イベント、事務費等。

2021年度 決算額

※詳細に関するお問い合わせ・ご要望は基金事務局までお願いします。

事業名	事業概要	支出額
大学院医学研究科博士課程入学者に対する奨学金	希望者に対して入学金相当額及び授業料相当額を貸与 入学金相当額: 282,000円×2人 授業料相当額: 535,800円×10人+267,900円×1人	6,189,900円
リサーチ・クラークシップへの助成	医学科2年生対象の国内及び海外の研究室での実習に対して宿泊費(約70日分)を助成 国内助成: 5,294,255円(19人/1泊上限5,000円)	5,294,255円
未来基礎医学への活動支援	学生の支援を行う講座へ運営費を助成 消耗品費、備品費、図書費、郵送料等	2,000,000円
国家試験対策への支援	医学科生及び看護学科生へ国家試験対策模試費用を支援 医師国家試験模試: 1,975,700円 看護師・保健師国家試験模試: 1,133,880円	3,109,580円
クラブ活動への助成	クラブ活動に必要な環境整備への助成 グラウンド整備費、消耗品費	2,599,212円
看護学科学学生への支援	看護学科学学生へ実習用白衣及びシューズを授与	1,391,601円
臨床英語での教育活動への助成	医学・看護学の準備教育としての臨床英語の強化を図るための講座の活動費を助成 講座職員人件費	2,098,044円
臨床研究中核病院承認取得への取組に対する助成	臨床研究中核病院承認取得に向けた体制整備(人件費) 臨床研究中核病院承認取得への研究費補助金	28,390,047円 15,000,000円
健康長寿イベント事業への助成	本学と地域社会との繋がりを強化するための取組である健康長寿イベントへの助成	915,051円
高度シミュレータ購入	初期研修医を中心としたシミュレーション教育の充実・発展をさせるためのシミュレータを購入	63,929,896円
募金推進事業	印刷費・郵送費・広報費等	1,518,167円
合 計		132,435,753円

活動事業のご報告

「未来への飛躍」基金の使途から一部ご紹介いたします。

教育・研究への支援

01 リサーチ・クラークシップ

医学科2年生を対象に、学生自ら直接専門領域の研究内容に触れ、さらには高度な実験科学の進め方を実際に体得するための授業です。研究活動の意義及びそれを支える研究者の心を理解して research mindを培うことを目的とします。国内及び海外の研究室での11週間の実習で、宿泊費の一部を本基金から助成しました。

2021年度活動報告より

旭川医科大学 先進医工学研究センターへ研究実習留学をしました。

(当時)医学科2年生 山名 智尋

この度は北海道への渡航費とリサーチ・クラークシップ期間の宿泊費のご支援をいただき、ありがとうございました。旭川という奈良から遠く離れた地で、2か月間という長期間の実習を無事行うことができましたのは、「未来への飛躍」基金からのご支援のおかげです。

リサーチ・クラークシップでは、先進医工学研究センターの先生方と一緒に研究活動を行うことで、現状の課題を解決するために新たな知を求めたり、まだ誰も知らないものを生み出したりすることの面白さとやりがいを感じることができました。私はずっと臨床の現場で働く医師になりたいと思い続けてきたのですが、リサーチ・クラークシップを通して研究に対する興味がとても強くなり、将来の選択肢の一つに研究者というものが加わりました。現時点では、奈良医大卒業後まず臨床医として医療に携わり、臨床の現場で見つけた課題を解決するために研究を行い、最終的に研究の成果を患者さんに還元できるような医師というものが目標とする将来像のひとつです。先進医工学研究センターでの経験がなければ、将来の選択肢に研究が加わることはなかったかと思います。旭川での実習の機会を与えてくださった「未来への飛躍」基金にはただただ感謝の気持ちでいっぱいです。この経験を糧にこの先も努力を続ける所存です。本当にありがとうございました。



前列右が山名さん

2021年度活動報告より

金沢大学 血管分子生物学教室へ研究実習留学をしました。

(当時)医学科2年生 朝井 啓斗

リサーチ・クラークシップを通して大きく2つのことを学びました。一つはもちろん研究のことです。高血糖ではAGEsの産生が亢進し様々な疾患に関係することは臨床で働く上で重要な知識だと思いました。また今回私が実験を行ったMG検出法についても、糖化反応の中間生成物の一つであるMGの検出法が確立され病態説明や早期診断、予防・治療薬の開発に繋がると考えられ、それに私が関われば嬉しいことだと思います。授業で教わることは確立された事実のように見えますが、その裏に未だ明らかになっていないことがたくさんあることを知りました。今後そのことを頭に入れながら注意深く授業を受けようと思います。もう一つは自分の性格に関することです。例えば帰宅時間について、実験の条件次第で終了時刻が異なり遅くまで残ることもあります。また発表の準備に関しても求める質によってどのくらい自分の時間を削るか変わってきます。研究、そして仕事に対する姿勢を改めて認識することができ、卒業後のキャリアパスを考える上でとても参考になる経験になりました。以上のことを学べたのは、約2か月金沢で研究に集中できる環境にあったからだと思います。関西にいれば家族や同級生のことだったり、部活のことだったり他の用事で忙しくなっていたと思います。金沢で研究に集中し、自分のことについてじっくり考え、そして多くのことを学べたのは「未来への飛躍」基金の支援があったからです。このような機会を与えてくださりとても感謝しております。医学・医療に貢献し支援してくださった皆様にお返しができるよう頑張りたいと思います。



左から3人目が朝井さん

2018年度活動報告より

Sidra Medicineへ研究実習留学しました。

(当時)医学科2年 小澤 享平

この度は研修先への渡航や滞在において多大なるご支援をいただき、大変ありがとうございました。「未来への飛躍」基金のおかげで留学を決断し、自分の本当にやりたいことをすることができました。今回関わったプロジェクトは始まったばかりで被験者となる患者さんの募集や、実験に必要なキットの検討をしている段階で、新しくできたラボだからこそ経験できることや学べることもあり、大学ではできない経験がたくさんできました。医学研究なしで現在のよう医療は存在していません。2年生という早い段階で医学研究について学ぶことができたのは、サポートいただいた教授や先生方、大学関係者のすべての方々のおかげです。心から感謝しております。



後列右から2人目が小澤さん

02 看護学科臨床研修 (国際看護論Ⅱ)

看護学科4年生を対象に、異文化における看護と医療の実際を海外研修において見学し、人間の健康と病が社会的・文化的に構築されたものであることについて理解を深めることを目的とした授業です。チェンマイ大学への海外実習の際の宿泊費の一部を本基金から助成しました。

2019年度活動報告より

今まで持ち合わせていなかった新しい視点で、物事のとらえ方を知れた研修

(当時)看護学科4年生 服部 由貴

タイの医療体制や問題に対するコミュニティーでの活動の様子など、実際に地域に行き見学し、直接お話を聞かせていただくことができました。私にとってこれからの看護師としての人生においてとても貴重な学びと経験になりました。この経験から感じたこと、得た学びを忘れず、今後活かし、患者やスタッフに対して真摯に向き合い寄り添うことのできる看護師を目指したいと思います。最後に、この研修にかかる費用を一部負担いただきありがとうございます。「未来への飛躍」基金があったことで、研修に参加することへのハードルが下がり、金銭面で悩むことなく研修を終えることができました。大きな発見から小さな気づきまで、とても良い経験となりました。



▲左から2人目が服部さん

2018年度活動報告より

世界中で働ける看護師になりたい

(当時)看護学科4年生 丸谷 良美

今回は、助成金による援助をいただき誠にありがとうございます。大学入学前から将来世界中どこでも働くことのできる看護師になりたいと考えていたので、援助として助成金をいただけると伺い、諦めず参加を決意することができました。この研修では、旅行では訪れることのできない病院内や、大学、その他の医療に関する施設の見学ができます。タイの医療の実際について学び、毎日英語に触れ、チェンマイ大学の看護学生の意識の高さを感じ、現在の自身の状況と向き合う良い機会となりました。費用を援助してくれた両親と大学、講義や指導を行っていただいた看護師・医師の方々、受け入れてくださったチェンマイの方々へ感謝すると共に、この貴重な経験を今後の私自身の成長と立派な看護師になるために活かしていきたいです。

▼左から4人目が丸谷さん



活動事業のご報告

「未来への飛躍」基金の使途から一部ご紹介いたします。

03 海外留学 (ADVANCED CLINICAL ENGLISH II)

健康や医療等に関する教材を用いて、reading, writing, listening and speakingを総合的に修得するための訓練を行うもので、医学科3~6年生、看護学科を対象としたニュージーランドへの海外留学です。交通費、宿泊費等の一部を本基金から助成しました。

2019年度活動報告より

学科と学年の枠を超えたチームで、互いに補い、伸ばし、改善し合える研修

▼横たわっているのが永井さん

(当時)看護学科1年生 永井 清香

このメンバーで参加できたことを非常に感謝しています。大学内で活躍できる学生でありたいという気持ちを抱きながら入学したこともあり、今回参加することで、英語を用いて発信できる看護師を目指したいという気持ちが一層大きくなりました。参加するためには、基本的な医学的知識は必要であると思いますが、低学年で知識不足だという理由で参加を諦めることは非常にもったいないです。ぜひ、低学年の方には英語力を磨き、それが自分の強みであるということを主張し、積極的に挑戦してほしいと思います。また、私にとって「未来への飛躍」基金の存在があったからこそ、この貴重な経験に参加する決断を下せました。今後の看護師というキャリアに対する考えに大きな変革をもたらしたと言えます。本当にありがとうございました。



2018年度活動報告より

自分の知識を活かし、実用的な場で確認できる研修

▼手前左が漆谷さん

(当時)医学科3年生 漆谷 哲

実際の環境で生身の人間を相手にした時に動じない精神的な準備と、非日常的な環境でチームとして働いていくことの大切さを学ばせていただきました。医学的な知識が定着しているか自信がない状況で、十分に学ぶことができるか不安でしたが、いざ行ってみると自分の知識を活かせることが多々あり、自信をつけることができました。研修のすべてが英語で行われているため英語力の向上を図ることができ、現地の医療のことも直接的に知ることができます。今回、海外研修に参加させていただき感謝の気持ちでいっぱいです。他では得られないような経験をさせていただきありがとうございました。



04 大学院医学研究科博士課程 入学者に対する奨学金

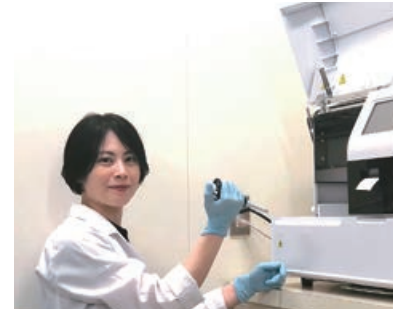
優秀な大学院博士課程修了者及び学位取得者を広く社会に、より多く輩出することを目的とした奨学金制度です。入学金及び授業料相当額を本基金から貸与しました。

2021年度活動報告より

血栓止血先端医学講座 細田 千裕

本奨学金のご支援のもと、私は血栓止血先端医学講座で研究活動に取り組んでおります。初期臨床研修終了後の進路を考える際、医局に所属せず大学院生として研究中心の生活を送ることに対して、経済的な不安を拭いきれずにおりましたが、本奨学金制度を知り安心して大学院に進学することができました。進学先の血栓止血先端医学講座では、血友病A根治療法の開発を目指して研究活動に没頭する毎日を送っております。現在研究を中心に据えた生活を送れているのも、本奨学金制度により学費の懸念が解消されたことが大きいと感じる日々です。

本奨学金の多大なるご支援には、心より感謝申し上げます。社会に貢献する医学研究者となるべく、今後一層の努力を重ねてまいります。



2021年度活動報告より

公衆衛生学講座 辻本 雄大

私は、現在、本学の公衆衛生学講座に所属させて頂きながら、大学病院に看護師として勤務いたしております。これまでの私の専門領域は集中治療であり、主な研究テーマは、集中治療を受けた患者さんが、ICUを退室してからも身体、心理、社会的な障害を抱えるという「集中治療後症候群(PICS: Post Intensive Care Syndrome)」について、多施設研究を実施いたしました。そこで、たとえ命が助かったとしても健康に療養生活を送ることができるかがQOLの向上に重要であることを学びました。そこで、より対象をマクロに捉え探究できる公衆衛生に興味を持ち進学いたしました。未熟ではありますが、高度な知識やスキルを持った先生方のご支援を頂きながら社会貢献できるよう尽力いたします。本基金によるご支援を頂き、心より感謝申し上げます。



社会とのつながりへの支援



●健康長寿イベントへの助成

奈良医大の教員と学生がショッピングモールで開催した、地域の方々に奈良医大を身近に感じてもらうための健康イベントへ助成を行いました。近年、関心の高まる感染予防や健康情報の発信、AEDの使用方法の実演などに加え、子どもも楽しめるよう診察・看護体験や救急車見学を実施し、医療に興味を持つきっかけづくりができるようなイベントが行われました。



クラブ活動への助成

クラブ棟の老朽化対策や環境整備に助成をしております。クラブ棟の改修や弓道場の場盛土の修復といった大規模なことから、クラブ棟のコンセント増設やバッティングゲージの購入、クラブ用洗濯機買い替え、更に設備だけでなく「西日本医科学生総合体育大会(西医体)」への参加費の助成も行ってきました。

クラブ活動は学生生活を有意義にするだけでなく、豊かな人間性や社会性を培うことにおおいに役立ちます。基金では、これからも学生のクラブ活動を応援していきます。

